

コロナ禍における政策支援と景気および株価の関係 —景気回復前の株価上昇メカニズムの検証と今後の展望—

市川 雅浩 CMA・CIIA

目 次

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. はじめに | 4. 金融政策が株価に与えた影響 |
| 2. コロナの感染拡大と株式市場 | 5. ワクチンの普及と株式市場 |
| 3. 景気動向と株価の反応 | 6. 終わりに |

本稿ではコロナショック後の株価上昇メカニズムを検証する。今回、米量的緩和の実証分析を行ったところ、株価に対し有意にプラスの効果が確認された。そのため、2020年の春先以降、感染拡大の中、景気回復前に株価が上昇したのは、強力な金融緩和が一因と推測される。なお、株式市場はこの先、政策支援が縮小していく新たなステージに入りつつあると思われるため、今後の株式市場を展望する上で注意すべき点を最後に挙げておく。

1. はじめに

世界の株式市場は2020年の春先、新型コロナウイルスの感染拡大によって大きく混乱した。いわゆる「コロナショック」の発生であるが、その後、多くの国や地域で、積極的な金融緩和と大型の景気対策が打ち出されたことにより、株式市場は徐々に落ち着きを取り戻していった。その後、2020年11月の米大統領選挙で、米民主党のバイデン候補が勝利すると、米追加経済対策への期待が高まる中、ワクチン開発の進展とも相まって、主要国の株価指数は、年末にかけて一段高の展開

となった。2021年に入ってから、世界的な株高基調は続いたが、ワクチンの接種が普及するにつれ、2月には米国で早々に金融緩和の巻き戻し観測が浮上し、長期金利の上昇ペースが加速すると、株式市場がやや調整色を強める場面もみられた。

コロナショック後の世界の株式市場は、総じて上昇基調に転じたが、これは主要国・地域でコロナの感染拡大が続く中で、かつ、景気が明確に回復する前に観測された。このような株価の動きに対し、実体経済と大きく乖離しており、バブルの状態にあると指摘する向きもみられる。そこで本



市川 雅浩 (いちかわ まさひろ)

三井住友DSアセットマネジメント チーフマーケットストラテジスト。早稲田大学政治経済学部経済学科卒業後、東京銀行（現・三菱UFJ銀行）入社。外資系金融機関を経て、2015年より現職。法政大学大学院経済学研究科修士課程修了。